

第13号 グリーンス川越



編集人 川口けいすけ



STOP!! ハッ場ダム



日本一高いムダなダム!

今また、約9,000億円という巨額の税金をかけてのダム計画が進められます。群馬県吾妻川の中流部、川原湯温泉街や吾妻渓谷に水没させる「ハッ場(やんば)ダム」です。

昨年11月、計画を進める国土交通省は事業費をいきなり倍増させ、関係1都5県(費用負担順に東京・埼玉・千葉・群馬・栃木)は費用負担を了承してしまいました。このまま進むと必要のないダム事業に9,000億円もの負担をさせられる他、水道料金としても私たち住民の肩に重くのしかかってきます。

ハッ場ダム建設計画は、検証すればする程不必要なことが明確です。いつまでも繰り返される愚行をストップさせるために私たちは昨年9月、都・県に対しダム負担金支出の取り止めを求めて住民監査請求(行政の監査委員に対しこの事業は税金の無駄使いだから調べなさい!という意思表示)を行いました。しかし、監査もなく却下・棄却されました。そこで、昨年11月から6都県それぞれに対し住民訴訟を起こし、法廷闘争を開始しました。ダム事業はまだ本体工事には入っておらず、6都県の内1つでも事業から撤退すればハッ場ダムは止まります。今なら私たちの手で止めることができます!

ハッ場ダム計画の歴史

ハッ場ダムの計画が浮上したのは半世紀以上前の1952年で、その後一度立ち消えになりましたが、1965年に計画が再燃しました。

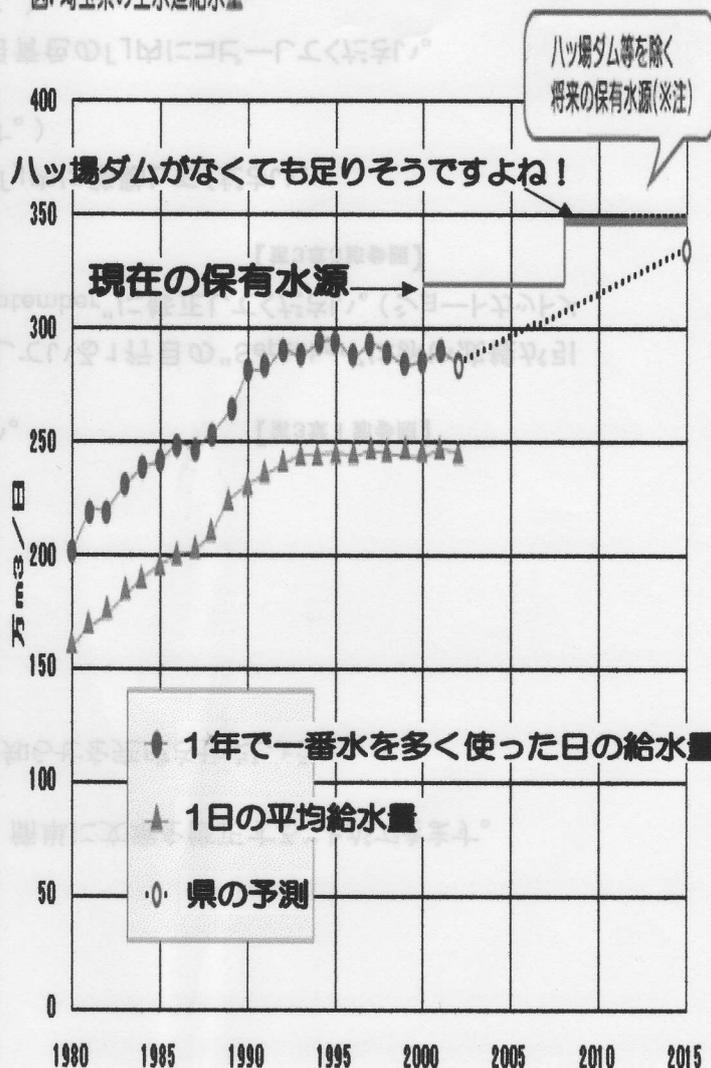
このダムの目的は、利根川中下流部の洪水被害軽減と都市用水の供給ですが、現状ではこの目的が消滅し、建設ありきで計画が進んでいるムダな公共事業の最たるものになってしまいました。ダム計画に翻弄される住民をよそに、50年の間に計画変更を重ね、今では日本一高いダム計画となっています。

水は余っている!

首都圏はすでに水が余っています。工業用水も水道用水も、その需要は最近10年間ほぼ横ばい状態が続いています。節水や漏水防止策により一人当たりの給水量は減少しています。

さらに、2015年をピークに首都圏の人口も減っていきます。ハッ場ダム完成予定のこの頃には、水余りはいっそう顕著になるでしょう。

図: 埼玉県の上水道給水量



*注 将来の保有水源は、今後の水源開発を滝沢ダムのみとする。地下水は削減しないものとする。

県の予想値は4%の余裕を見込んだ値を示す。